

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部長兼健康管理センター長	南谷 かおり
患者サポートセンター副看護師長	新垣 智子
保健師	岩岡 文夏(1月産休復帰)
保健師	八嶋 茉莉
国際医療コーディネーター	木村 ガーリー
国際医療コーディネーター	難波 幸子
国際医療コーディネーター	前田 佐和子
医療通訳	林 紹成
事務員	廣中 司
協力医師 (膠原病内科部長兼リウマチセンター長)	入交 重雄
協力医師 (総合内科・感染症内科副医長)	山本 雄大

—概要—

国際診療科は、その前身となる国際外来(2006年4月開設)の機能強化を目的として2012年11月にスタートし、医療通訳サービスの提供、院内資料の翻訳、受診に関する問い合わせ対応など、外国人が安心して医療を受けられるよう様々な支援業務を行っている。

医療通訳サービスは、当院を受診する外国人患者に対し英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語の5言語で受付から検査、診察、会計まで付き添い通訳を行うもので、患者は無料で利用できる(人間ドック等、自由診療の通訳は有料)。診療の必要な場面で医療通訳が介入し外国人患者と医療者のコミュニケーションの橋渡しをすることで、言葉が通じないことによるトラブルを未然に防ぐと同時に、満足度の高い医療の提供に繋がっている。最近、ベトナム人患者やその他希少言語の患者が増加傾向にあり、また、全く日本語が話せない在留外国人の家族の受診が目立つようになっている。夜間、週末といった時間外や希少言語の対応については、電話による外部の遠隔通訳サービスを利用している。

通訳コーディネートを始め、外国人患者が円滑に安心して受診するために必要な各種調整・サポートは、当科の国際医療コーディネーターが中心となって担当している。訪日観光客は日本の医療の仕組みに慣れておらず、日本の国民健康保険にも加入していないため、受診の流れや医療費について事前に説明が必要となるなど、日本在住者とは異なる対応が求められる。

当院は医療通訳者の実地研修が行える全国的にも数少ない医療機関の一つであり、2015年度からは大阪大学主催の社会人向け医療通訳養成コースの実習先にもなっている。今後ますます需要が高まるとされるこの分野にお

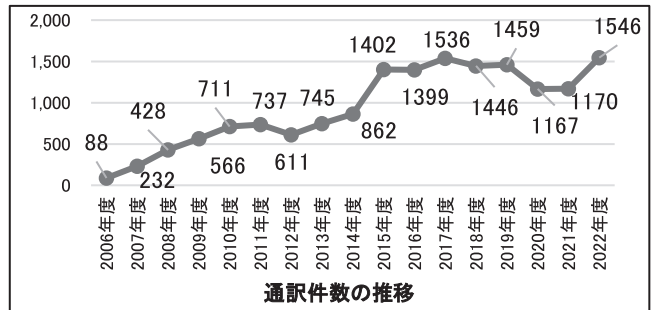
いて、当院は「現場に根差した」医療通訳者養成という重要な役割を担っており、同時に、多言語を話す医療者のバックアップのもと、「常駐型」の医療通訳サービスを提供していることも当院の特色の一つである。

2013年度からは入交医師が米国退役軍人健診を始め、国内で数少ない認定機関の一つとなっている。また、病院スタッフ向けの月1回の医療英会話レッスンは、2020年4月から国際診療科ではなく臨床研修センター主導の研修医向けプログラムに組み込まれ、語学力の向上・啓発に寄与している。

なお、外国人患者受入れ体制に関する外部評価として、当院は「外国人患者受入れ医療機関認証制度JMIP」の認証を有している他、大阪府外国人受入れ拠点病院や厚生労働省による「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の拠点病院に8年連続で選定されている。拠点病院になると、医療通訳者やコーディネーターの活用等にもメリットがある。

—実績—

(1) 2022年度別通訳件数の推移



(2) 2022年度言語別通訳件数

言語別通訳件数	
中国語	419
英語	361
スペイン語	169
ポルトガル語	219
ベトナム語	224
タガログ語	65
その他	114
合計	1,571

※一人の患者に対していくつかの言語で対応する場合は別で数えている。

(3) 2022年度内容別通訳件数

内容別通訳件数	
診察	787
会計	360
説明・相談	255
検査	337
受付	240
電話問合せ	193
薬処方	150
処置・手術	67
予約	89
問診	67
看護業務	20
その他	181
合計	2,746

(4) 2022年度診療科別通訳件数

診療科目別通訳件数	
総合内科・感染症内科	111
消化器内科	75
糖尿病・内分泌代謝内科	56
血液内科	23
循環器内科	83
腎臓内科	8
呼吸器内科	20
脳神経内科	20
肺腫瘍内科	0
産婦人科	455
小児科	135
国際診療科	24
泌尿器科	71
整形外科	52
健康管理センター	51
形成外科	46
外科	73
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	137
口腔外科	20
救急科	39
脳神経外科	59
麻酔科	13
放射線科	21
眼科	18
救命診療科	36
心臓血管外科	7
放射線治療科	3
呼吸器外科	1
皮膚科	3
リハビリテーション科	0
その他	1
合計	1,661

※一人の患者が複数診療科を受診する場合あり。

—国際渡航ワクチン外来—

今年度の国際渡航ワクチン外来の受診件数は314件だった。接種ワクチンの内訳を見ると、最も多いのが黄熱で、144名に接種した。次いで狂犬病、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、腸チフスと順位は昨年度と変わりなかった。

現在当院で用意している輸入ワクチンは、Verorab®(狂犬病)、Typhim Vi®(腸チフス)である。また、ワクチンの説

明、接種のみにとどまらず、安全で快適な海外滞在を支援するために、海外での疾患流行状況や医療機関、防蚊対策、ダニ刺咬対策等幅広い情報提供を行っている。

内服薬の処方も可能となっており、マラリア流行地域への渡航者にはマラリア予防内服薬(アトバコン/プログアニル合剤、メフロキン)を、高地へ渡航する渡航者には高山病予防薬(アセタゾラミド)を処方している。

新型コロナウイルス感染症の流行により当外来の受診者は2020年以来減少していたが、2022年度は倍増しており、仕事や帯同家族としての渡航に加え、観光目的の渡航も戻ってきている。

当院は関西国際空港の対岸に位置しており、海外へ渡航する方々の出国から帰郷までを見届けることのできる医療機関であり、当院における本外来の役割は重要である。今後も総合内科と協働し、国境を越える人々の健康保全に努めたい。

—今年度の成果と反省点—

今年度は第4回目のJMIP更新審査受審に向け、各部署で外国人患者対応マニュアルの更新やツールの作成等を行った。国際診療科としても全部署共通の外国人患者対応マニュアルを更新し、イントラネットに掲載することで、どこからでも容易にアクセスできるようにした。また、翻訳基準を策定し、重要な内容は翻訳文書を渡すだけでなく、通訳を使ってきちんと説明するようにした。

患者からは通訳利用同意書を取得し、医療通訳について理解と同意を得るようにした。さらに通訳利用報告書、通訳利用者アンケートにより患者・医師双方からの意見をもとに今後、遠隔・対面の使い分けを考えていく。

院内研修として、昨年に引き続き各国の医療事情を紹介する動画を2本作成しe-learningで視聴できるようにした。近年増加しつつあるイスラム教徒やベトナム人妊婦への理解促進を図る内容となっている。

—来年度への抱負—

地域医療機関に、遠隔医療通訳サービスの活用法など外国人診療に必要な情報を提供し、外国人患者のニーズに沿った医療機関を受診できるようサポートする。また、増えつつある訪日患者の、受診や帰国調整、未収金対策にも引き続き対応していく。